

比較優位と競争的優位

有名で大きな概念であるデヴィッド・リカード（1817）による「比較優位」を、最近ビジネススクールで人気のある M.ポーターの「競争的優位」の概念と混同しないでください。

比較優位は国際貿易理論の核となる考えであり、実際、国内外のすべての貿易の基盤でもあります。それはミクロ理論の核となる概念でもあると言えます。リカードの国際貿易における特化と交換からの利益は、それが国家間であっても、ある経済圏内の産業間や職業間であっても、等しく当てはまります。

1980 年代に、M.ポーターはいくつかの本とハーバードビジネスレビューに一つの論文を発表しました。「何が国の競争優位をもたらすか」という論文です。それは経済学によって教えられた理論ではありませんが、彼が言及した概念の多くは、それらに専用の経済学のサブフィールド（たとえば、規模の経済、集積の効果、戦略的貿易理論など、ポーター以前からある概念）を持っています。

M.ポーターの 1990 年ハーバードビジネスレビューの論文「何が国の競争優位をもたらすか」より：

「国家の繁栄は、受け継がれるのではなく創造されます。古典派経済学が主張するように、それは国の自然の恵み、その労働力、その金利、またはその通貨の価値から成長するものではありません。」

彼は「古典派」経済学者が教えていることと正反対のことを言っています。つまり、彼は MIT、ハーバード（経済学）、東京大学、横浜国立大学の現在の教室で教えられていることと反対のことを主張しています。国際貿易理論には多くの理論がありますが（今年はそのうちのいくつかを紹介します）、ポーターが言及している主な 2 つの理論は、1) リカード理論（今学期に研究）と 2) 要素比率理論、またはヘクシャー・オリーン・モデルです。ヘクシャー・オリーン・モデルは他の貿易コース、私のゼミ、および今日のすべての主要な教科書で教えられています。

ポーターが言うように、「国の繁栄はいつか生まれる」というのは事実です。しかし、貿易理論で使用する標準的な（そして厳密な）モデルは、貿易が発生する理由について多くのことを教えてくれます。ポーターの概念ははるかに広く、数学的な厳密さを欠いており、非常にあいまいであり、通常、体系的な計量経済学的テストではなく、事例証拠によってサポートされています。これは彼の考えが必ずしも間違っているということではありません。彼の概念は、なぜ国が貿易するのか、誰が何を貿易するのか、そして貿易からの利益の源は何であるのか、そして最後に消費者、生産者、そして国の全体的な福祉に対する様々な貿易政策の影響は何か、についての質問に答えようとする貿易経済学者にとってあまり有用ではないことがわかっているというだけのことです。

したがって、比較優位は非常に具体的な概念であり、リカード理論（労働力のみが生産要素の場合）または要素比率理論（ヘクシャー・オリーン・モデル）のいずれかで数学的に表すことができます。

経済学者はまた、国際貿易の文脈で「競争力」という言葉を使用することもありました。しかし、これはポーター教授の構成概念である「競争上の優位性」ではありません。私たち（国際経済学者）はこの用語を使用しませんが、「国際競争力」という言葉を使用することもあります。これは、例えば、国がある財においてそれほど大きな比較優位を持っていないとします。実際、最初は小さなディスアドバンテージを持っているとします。しかし、その後、彼らの国はその通貨レートを人為的に低く保つとします。そしてこれは世界市場で彼らにコスト上の利点を与えます。クルーグマンやオブストフェルドのような経済学者の教科書では、通貨の過小評価は輸出における国の競争力を高めると言っています。これに関連して、通貨の「競争的切り下げ」の恐れについても書かれています。競争的切り下げとは、例えば、日本が輸出を増やすために円を切り下げるという状況ですが、そうすると例えば韓国も日本の輸出との競争力を高めるためにウォンの切り下げを行うなど、「ドミノ効果」をもたらします。ポーターのビジネススクールの概念に言及していない限り、国際経済学者は（いくつかの理由で）「競争優位」という言葉を使うことはありません。

原則として、経済学およびビジネススクール（学部生および MBA）のすべての学生はミクロ経済学を学びます。すべての人に必須のコースです。彼らは皆、絶対優位と比較優位を学びます。通常、卒業後は忘れてしまい、2つを混同することがよくあります（絶対優位と比較優位）。リカードの比較優位の見事な洞察を忘れることは別として、すべての国は（絶対的に）どれほど非生産的であっても、国際貿易から利益を得ることができるべきであることを示しています。時々、人々は（「かわいそうな国 ABC：彼らは何にも比較優位を持っていない…」）と言いますが、これは間違っています。これは不可能なのです。すべての国は、確かに、何らかの財において比較優位を持っているからです。¹

人々が犯すもう一つの大きな間違いは、比較優位がアダム・スミスの概念であったということです。それは違います。スミスの概念（絶対優位と貿易からの利益）は素晴らしく、研究分野としての経済学を確立しましたが、リカードはより深い洞察により、これに比較優位について付け加えました。

デビッド・リカードの教育と経歴：彼は国会議員や政治哲学者になる前は、金融業界で働いていました（そして非常に成功していました）。彼は当時の偉人（賢人）、マルサス、ジェームズ・ミル、ジェレミー・ベンサムと一緒に勉強し、友人関係にありました。

マイケル E.ポーターはハーバードビジネススクールの教授です。

彼の学歴：プリンストン大学工学部の BA、ハーバードビジネススクールの MBA、ハーバード大学のビジネス経済学の博士号。

¹ もちろん、比較優位を持っていたとしても、「内陸国」やその他の高い輸送コストのために輸出できないという国がある可能性もあります（コンゴ民主共和国やネパールを考えてみてください）。また、真の根本的な比較優位から生じる輸出は利益をもたらすはずですが、一部の貿易、特に政府の介入（たとえば、生産や輸出補助金）によって人為的に作成された貿易は国を悪化させる可能性があります。市場価格やコストを下回る価格で商品を補助し輸出する国を考えてみてください。これは、たとえ貿易黒字があるとしても、輸出国を悪化させることは間違いありません。

参考文献：

ポーターの著書

ポーター、マイケル E. (1980) 「競争の戦略…」

ポーター、マイケル E. (1985) 「何が国の競争優位をもたらすか…」。

これは最近の版がたくさんある本です。 ほぼ 900 ページの長さです。

リカードの著書

リカード、デビッド (1817)、「経済学および課税の原理」

全編はこちら：

<http://www.gutenberg.org/files/33310/33310-h/33310-h.htm>

彼は比較優位の考えに加えて多くのトピックについて議論しています (第 VI 章、約 20 ページ)。